

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調
DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

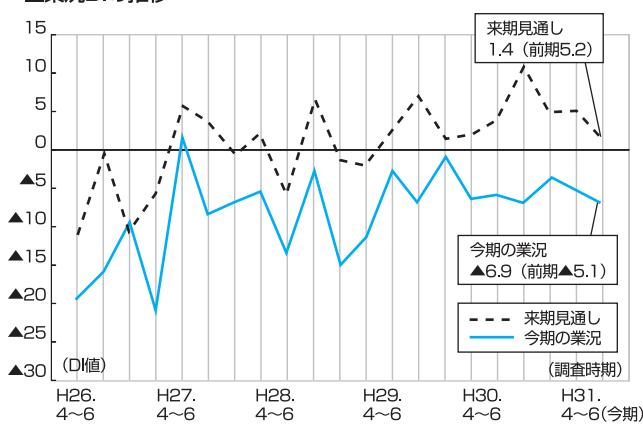
DI値	-25P以下	-25~-10P未満	-10~10P未満	10~25P未満	25P以上
景況	特に悪化	悪化	横ばい	好転	特に好転
	↓	↓	→	↑	↑

鹿児島商工会議所

景況調査

調査期間 2019年4月～6月
回答企業数 146社

■業況DIの推移



る。

産業別に見ると、小売業のDI値は改善したが、製造業やサービス業のDI値はマイナスに転じている。

（今期（2019年4～6月期）の景況）
全産業の業況DI値は、▲6・9
(前期比マイナス1・8) ポイントで、前期に引き続き後退傾向が続いている。

今期業況も引き続き後退傾向。来期も慎重な見通しは継続

【今期の売上額・資金繰り・採算】

売上額の全産業DI値は、▲5・5
(前期比マイナス6・8) ポイントと低下。卸売業はマイナス幅を縮

小したが、小売業とサービス業は後退した。

資金繰りの全産業DI値は、▲4・1
(前期比マイナス2・2) ポイントとわずかに低下。特に卸売業では大きく悪化した。

採算の全産業DI値は、▲5・6
(前期比プラス0・7) ポイントとほぼ変わらなかつたが、小売業は改善がみられた。

【回答企業のコメント】

・海外観光客が増加しているため、ニーズを把握し、売上増加につなげたい。（小売）

・仕入価格の上昇を売価に反映できていない。仕入・販売条件を見直すとともに、コスト削減などにも力を入れたい。（卸売）

・少量、多品種の受注が増加しており、その対応が課題。（製造）

■産業別DI値表

		前期 [2019.1～3] (A)	今期 [2019.4～6] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [2019.7～9]
業況	全産業平均	▲5.1	▲6.9	▲1.8	1.4 →
	製造業	3.0	▲9.4	▲12.4	▲6.3 →
	建設業	3.3	0.0	▲3.3	12.0 ↑
	卸売業	▲13.0	▲17.4	▲4.4	0.0 →
	小売業	▲29.0	▲7.7	21.3	▲4.0 →
	サービス業	5.1	▲2.7	▲7.8	5.4 →
売上額	全産業平均	1.3	▲5.5	▲6.8	▲2.8 →
	製造業	▲2.9	0.0	2.9	▲12.9 ↓
	建設業	13.8	7.4	▲6.4	▲7.4 →
	卸売業	▲16.7	▲4.5	12.2	8.7 →
	小売業	0.0	▲19.2	▲19.2	8.0 →
資金繰り	全産業平均	▲1.9	▲4.1	▲2.2	▲5.3 →
	製造業	▲2.9	▲9.7	▲6.8	▲2.1 →
	建設業	6.9	7.4	0.5	▲10.0 →
	卸売業	8.3	▲17.4	▲25.7	3.7 →
	小売業	▲15.2	▲7.7	7.5	▲8.7 →
採算	サービス業	▲2.6	2.6	5.2	▲8.3 →
	全産業平均	▲6.3	▲5.6	0.7	7.9 →
	製造業	0.0	0.0	0.0	▲3.5 →
	建設業	6.7	0.0	▲6.7	▲12.5 ↓
	卸売業	▲8.3	▲4.5	3.8	▲7.4 →
	小売業	▲25.0	▲11.5	13.5	9.1 →
	サービス業	▲5.3	▲10.8	▲5.5	▲12.0 ↓